

392 ウクライナ戦争と日本に迫る危機—エゼキエル戦争の現実味—

エゼキエル書 38 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



皆様、こんばんは。本当に久しぶりの天満橋バイブル倶楽部で、今日は皆様と対面でお話できますことを嬉しく思います。先月 関東の方で何回かこのような集いがあったのですが、テーマはどこでもウクライナ戦争です。今日 私は青地のシャツに黄色のネクタイ。ウクライナ・カラーでございます。リボンもウクライナしてるのですが、連帯の意味を込めてこれをやっています。

その講演会は主にビジネスマンの方々が集まる会で、ほぼほぼ全員がビシッとスーツで決めておられるのですが、1人 言っちゃ悪いが、ちょっと場違いみたいな人がいたんです。若者で、ちょっとヤンチャ系というか ヤバイ系というか 遊び人風というか。真面目な講演を聞きに来るようなタイプではなかった。ですが、人は見かけによらないですねえ。講演中 非常に熱心にメモしながら、頷きながら。

私は若者が大好きですから、有望な若者に育ったらいいなと思っていたら、終わった後でやって来て、「高原さん、『ウクライナ戦争はある種の情報戦だ。ロシアはフェイクニュースを流すし、ウクライナはそれに反論の情報を流しているけど、ウクライナの中にもフェイクがあるかもしれない。とにかく情報を握る者が世界を握る。情報で勝つことが相手を圧倒できる』ということ、本当にありがとうございました。僕はその経験があるので、お話したいんです。」 勇気あるなど。

彼が育った所はスラムです。日本有数の有名な所ですよ。非常に不幸な生い立ちの青年で、中学ともなれば誘惑の手が伸びて来る。脱法ハーブって分かりますか？ 合成麻薬・違法薬物です。タバコなんか もうとっくに卒業。ちょっとラリりたい。トリップしたいみたいな感じでね。彼の周り、脱法ハーブをやって一度 麻薬に手を染めたら 皆ガタガタ。廃人になっていきます。

「どんなことがあっても薬物だけはしない！」と堅く誓っているのですが、それを勧めて来る人は先輩なんです。この先輩というのがいずれも強面で、「やめろ」と頭ごなしに否定したら角が立って、薬物の恐さとは別の恐さ…いじめの対象になったり、暴力的な脅しにあったりする。嫌なものは嫌で吸いたくないけど円満に断りたい。でも、円満に断るって難しい。みんな、それで押し切られてやっちゃう。やり出したらやめられなくなる。

ところが彼は「あるひと言を言ったらサーっと去る」と言うんです。黄金のひと言。「何ですか？」聞きたい。(はよ言えや、おまえ～)。「先輩、僕って めっちゃ口軽いんです」というひと言です。「僕、みんなから『おまえ、ほんま秘密守られへんヤツやな。見たこと聞いたこと、すぐベラベラ喋って、男のおしゃべりや。おまえなんか信用できひんわ。ここだけの話やいうの、全部その日のうちに言いまくってるやろ』って、みんなからバカにされてるんです。僕 秘密守れない口の軽い男なんです。」スーツと去って行くと。そんな奴に違法薬物を売ったら、その日のうちに、どうやって手に入れたのか、誰から手に入れたのか喋りまくる。そして足がつく。

「高原さん、これって情報戦ですよ。」確かに。相手が嫌がることを言ってる。こいつと関わったら自分が逮捕されるかも、という危険を感じさせた。相手を去らせるのに腕力で追っ払ったんじゃない。こいつと関わったら酷い目に遭うぞ、ということを持たせただけでやった。ほんとに情報戦。そういうように乗り越えていくのを知恵というんでしょうね。

ゼレンスキー大統領、主要先進7カ国（G7）全ての国会議員たちに対してオンライン演説をしましたが、他の国々でもやってますよね。この間 韓国でもやってましたが、私、ほぼほぼ全部見ました。そして、全文読みました。DeepL（ディープエル）というコンテンツがあって、英語でも ドイツ語でも ロシア語でも ウクライナ語でも、世界一精密な翻訳をしてくれるんです。無料ですよ。お勧めします。

それで世界各国のを読んだんですが、一番迫力があつたのはドイツです。ドイツの国会議員に対するゼレンスキー大統領の演説、凄い！ それは、ロシアがウクライナに攻め込んで3週間経った時の演説です。

「ドイツ国会議員の皆さん、今日は、この場にオンラインで招いていただきありがとうございます。私たちは、8年前のドンバス地方の不法占拠からずっと戦争しています。特にこの3週間 三方から攻め込まれ、この戦争の真ただ中で『前々から感じていたことは、やっぱりそうだったんだ』と確信になっていることがあるので、その感覚について皆さんにお話したいと思います。

ドイツの政治家の皆さんは、壁の向こう側にいる人々ですね。壁といってもベルリンの壁じゃないです。ベルリンの壁の西側にいる人々は自由です。でも、東側にいる人たちはシュタージ（秘密警察）によって四六時中見張られ密告され、家族ですらも信用できなかった。しかし、どんなに酷い事がそこで起こっていても、壁があるので見えない。壁の向こう側でどんな事があるのかは、壁に遮られて見えません。そのベルリンの壁は、既に取っ払われましたね。今 ヨーロッパにベルリンの壁はない。

でも ヨーロッパ大陸のど真ん中に、自由がある国と、蹂躪されているのにどこからも援助が来ない国とがあるんです。ドイツよ、あなたがたは壁ですよ。あなたがたは、壁の向こう側でどんな事が起こっているのか、何も分かっていない。

私は何年も前から言って来ました。『ノルドストリーム（ドイツとロシアのパイプライン）はロシアにとって武器になる。ロシアはエネルギー供給によって、ヨーロッパをロシアに依存させるし外貨を得る。このパイプラインを作ることは、ロシアの強力な武器になる。』あなたがたは何と言いましたか？ 『いや、武器じゃない。経済だよ。』経済。経済。経済。金の話ばかり。結局ノルドストリームは、この壁をより分厚くするセメントになりましたね。

また、私たちが『NATO に加盟して安全保障を確保するためにはどうしたらいいのか』と言った時、あなたがたは『そんなことには取り合わない。将来も取り合うことはない』と言いましたね。そしてロシアとの関係、貿易をどんどん深めていきました。それは、分厚い壁の上に有刺鉄線を巻いているようなものです。なぜこんな事が起こったのか。ドイツよ、あなたたちの責任は重い。」ズバリ言った。

日本への演説、どう思いましたか？ 私は、ウクライナ人女性が翻訳した言葉、ちょっとまどろっこしいなあ。もっとピシヤツピシヤツ言われへんかなあと思ったんですが。林外務大臣なんて、マスクの内側であくび。足放り出して。NHKがそれをずっとクローズアップしてた。

ドイツの国会議員たちは、その演説中静まり返って、まるで被告人であるかのように、神妙な顔つきですっと聞いてました。そして、ドイツはウクライナを全面バックアップ。これはドイツの国民の心に届いて、ウクライナを支援しないような政権は もうもたないと政治家が思ったんです。ゼレンスキー大統領は言葉の力で、演説の力で、そして自分の心から出て来る言葉で。ペーパーを読んだんじゃない。人の心に一番届く言葉は、やっぱり率直な言葉だと思うんですね。自分が本当に思っていることを言う。表面的なことじゃなくて。それで心揺さぶられて、ウクライナのために何かしたれや！みたいな形で政府が動いていった。

なぜこんなことを冒頭にお話したのか。今日、だれか政治家の演説を皆様に聞かせようとは思ってません。でも、そんな鋭い政治家の演説によって、平和ボケしていたドイツが国防費 GDP1.5%を一挙に 2%に跳ね上げて、今までの体制をガラッと変えて来ましたね。目覚めたんです。

実は政治家の演説よりも何よりも、やがてやって来る大戦争に備えさせるため、神が聖書を通して聖書預言という形で語っている箇所があります。

聖書は宗教の本じゃないんです。目に見えない実在している創造主が、今の時代を生きている人間たちに正気を与えるために、準備させるために語られた神のことば。

今日は天満橋バイブル倶楽部なので、最終的には聖書のことをお話したいと思います。

その前に、ウクライナ戦争から日本が汲み取るべき教訓を最初にお話します。

ゼレンスキー大統領は危機において逃げ出していません。彼は選挙で選ばれた大統領です。

元はコメディアン俳優で政治経験ゼロ。彼が内閣に引き入れたのは、同じプロダクションに所属していた芸人・プロダクションの社長・CM 会社の社長・業界の人たち。全員ど素人。そんなんでようやるな、という感じでした。

アメリカは何度も亡命を勧めました。「亡命のための準備を全部整えている。ロシアは傀儡政権を作ろうとしている。“その政権は正統性がない” と言うには、選挙で選ばれた大統領が生き残っていることがとても大事なことです。あなたが死んでしまったら困るので、ぜひ亡命してください。」

しかし、「私が欲しいのは外国に行くための乗り物ではなく武器だ。兵器だ。だから、アメリカには兵器を援助してもらいたい。」

逃げなかった。命を捨てた。命を捨てることによって命を得た、という感じがしますね。

ついこの間まで 政治的には全く無名の人物だったのが、一躍世界で一番有名な政治家になりました。

まさに英雄ですよ。なぜ彼が英雄になったのか。危機において、現場を離れずにリーダーシップを発揮しているからです。

ところで、安全保障の格言の中に こういう言葉があるそうです。

“危機を未然に防ぐことができたリーダーは英雄になれない。”

危機に踏ん張って国民を鼓舞する、というリーダーシップを発揮するのは素晴らしいことです。

しかしもっと良いのは、そもそも危機にならないように未然に防ぐことです。日本に英雄は要りません。

危機になった後で、陣頭指揮を取って素晴らしいリーダーシップを発揮するリーダーよりも、侵略戦争を未然に防いで起こさせないようにするリーダーこそが日本には必要です。日本に英雄は要らないんです。

ロシアとウクライナの国境にロシア軍 10 万人が配備されたのは去年 3 月。2 月 24 日にロシアの侵攻が始まったから、1 年間の猶予期間があったわけですよ。しかし、1 年間何もしなかった。

10 月末から本格的な軍事演習が始まったのですが、それでも何か準備することはなかったんです。

アメリカ大統領補佐官 ジェイク・サリバンが、昨年 12 月頃から、ロシアの内部情報についてバンバン公式発表するようになりました。公式発表の前に、より詳しい精密な情報をウクライナ側に流しているのはもちろん当然です。「プーチンは本気だ。ただ軍隊を見せびらかしているだけじゃない。プーチンはやる気だ。本当に入るぞ。」バンバン言うのです。

その時 ゼレンスキー大統領は何と言ったか。マスコミ向けですが、「パニックを起こさせるような情報は、我々の助けにならない。ロシア侵攻に関するアメリカの分析には誇張があり、その警告は不適切である。

我々は、ロシアとのこじれている紛争問題は全て話し合いで決着する。ロシア国民はウクライナと戦争したいとは思っていないから、そんな事は起きない。」

アメリカから非常に精度の高い情報を受け取っていたのに、積極的に活用することがなかった。そうして、予備役兵の動員を掛けたのが戦争開始の2日前ですよ。たった2日で戦争準備できますか？準備しようと思ったら1年前から期間があったのに、始めたのは2月22日。24日には侵攻が始まった。この後手に回ったのが決定的でした。

ベラルーシの国境からキーウまで90キロありますが、たった1日で60キロ以上ロシア軍が来たんです。なぜそんなに早く進撃できたか。途中で地雷原作ってない。バリケード作ってない。落とし穴作ってない。何の準備もない。危機になってからのゼレンスキー大統領のリーダーシップは素晴らしいものがあります。しかし、猶予期間があり、何が起ころのかは情報大国のアメリカからもらっているのに、なぜ準備しなかったのか。理由があります。

その理由に行く前に、なぜロシアがウクライナに入ったのか。**この戦争の目的は何か。**

プーチン大統領の戦争目的は、大きく分けると2つです。

- 1) ウクライナの非ナチ化。ナチはナチス。現政権の転覆。ロシアの言いなりになる政権に入れ替える。
- 2) ウクライナの非軍事化。ウクライナから自衛の手段を奪い去ってしまう。いつでも抵抗されることなしに、ウクライナ全土を占領できる状態をつくる。

プーチン大統領は恐らく二段構えですね。

- ①まず政権の首をすげ替えて、自分の意のままに動く親ロシア派の政治家をウクライナ大統領に据える。
 - ②そして武装解除した状態で、この政権の要請を受けて、ウクライナをロシアに編入する。ロシアの1つの州にする。またはロシアに併合する。ロシア連邦の一員にしてしまう。
- この二段構えで進めようとしているのだろうということです。

では、なんでウクライナがそんなに欲しいのか。これはひと言で言うと、失地回復主義なんです。

私たちにすれば、「主権独立国家を 問答無用に国境突破して攻め込むとはいったい何事か！」

「21世紀の今になって、国連の安全保障理事会、常任理事国が国連憲章を踏みにじる。何じゃ、これは?!」ということになるのですが、プーチン大統領の思想はそうではない。

彼が事ある毎に言っているのは、「20世紀最大の悲劇にして間違い、それはソ連崩壊である。」

ロシア共和国以外に14か国がソビエト社会主義共和国連邦になっていたのが、ソ連崩壊と同時に「こんな国とはおさらばだ」と言わんばかりに15の国々はそれぞれ独立しました。

「これは20世紀最大の悲劇であり間違いである」とプーチンは言っているのです。

彼にとって、この14の国々は西側の陰謀によって独立をそそのかされ、本来ロシアのものであるべきだったにもかかわらず奪われた。奪われたものを取り戻すのは悪じゃないですよ。

他人のものを奪ったら、それは盗人(ぬすっと)ですよ。でも、元々自分のものだったのを陰謀によって奪われてしまった。それを取り戻すのは権利です。

プーチンにとって、ウクライナを併合・組み入れてしまうのは権利。正当な行い。咎められることはない。不当に奪われたものを取り戻すのは正義。良いこと。私は今良いことをやっている。

特にウクライナは他の14の独立国家とは違って、ロシアにとって特別なこだわりがあるんですね。

彼らは同じ東スラブ民族の一員。ロシア人とウクライナ人が並んで、どちらがどちらか分かりますか？

2 個のピロシキ並べて、どちらがうまいか分からへんのと一緒くらい 分からへんじゃないですか。

彼らが日本人・中国人・韓国人見ても、恐らく見分けがつかないと思います。

でも、ロシア語とウクライナ語はやっぱり違うんです。ある人は「方言や」と言いますが、ウクライナの方に聞いたら「そんなことはない。文法は似ているが、それぞれの言葉は全然違う」と言います。

ロシア人とウクライナ人は元々のルーツは 1 つですが、それぞれ別々の歴史を辿り、別々の言語体系を持ち、別々の文化を持っていたので、我々とロシア人は別なのだ、とウクライナ人は思っているのです。

しかしプーチン大統領は、「ロシアは大ロシア。ウクライナは小ロシア。同じ民族。それなのに別々の国ってどういうことか。南北朝鮮半島・南北ベトナム・東西ドイツなど、同じ民族が別々の国に分かれているのは不道德なことである。解消しなければならぬ。同じ民族は 1 つの国になるべきだ。それは良いこと・自然なこと・健康的なこと、私はそれをしようとしている」という確信ですね。

だけど、“ウクライナ人はロシア人か” は、プーチンが決めることではなく、ウクライナ人が決めること。ウクライナ人は「違う」言うてんのやから。

プーチンは自分の頭の中の妄想が全てで、それをロシア中に振りまいているわけですね。

プーチンが独裁者のポジションに就いて、もう 22 年ですよ。誰も彼の耳に痛いことを言わんでしょ。核を持ち、地球陸地の 1/9 を占めるロシアのトップに 22 年間君臨している男に、誰も逆らうことはできない。時々 プーチンの悪口・マズイこと言うジャーナリストがいるけど、みんな変死してるじゃない。私がここで自由に言えるのは、ここ日本だからですよ。ここモスクワやったら、ピロシキでも（どうぞ）みたいな、何の実も無いような話しかしないと思うんですよ。

すぐ隣、国境沿いに、そういう妄想を抱いた独裁人物に率いられているロシアがあるにもかかわらず、どうしてゼレンスキー大統領は後手に回ったのか。

それは、ウクライナの国是（法律に基づく安全保障政策）が専守防衛だったからです。

ウクライナは非核三原則を持っています。

同時に、専守防衛（専ら守り防衛する。専ら防衛に専念する）、この安全保障政策が法律で決まっているんです。これは、“敵が攻めて来て攻撃したら 初めて反撃する” というやり方。

先制攻撃はしない。敵が攻め込んで来た後で、初めて撃ち返す。追い払う。押し返す。

押し返すのは、相手の陣地までではなく国境まで。持っている兵器群は、防衛に最小限必要なものに限る。

これを専守防衛と言います。日本も同じですよ。

専守防衛は結局どうなるか。敵に主導権があるので初動が遅れる。こちらが先にアクションを起こすのではなく、向こうから攻め込まれた後で動くので、どうしても初動が遅れます。

同時に、攻め込まれてから立ち上がるので、国民に甚大な被害が及びます。戦場は国内だからです。

よその国のどこかに軍隊を送って戦うのではなく、自分たちが住んでいる人口密集地が戦場になる。

病院・学校・劇場・住宅地が戦場になる戦争です。

そして、最大の成果は敵を追い払うことであって、降伏させることではないんですね。

敵を撤退させることはできても降伏にはならない。なので、力を盛り返したらまたやって来る。

専守防衛というのは本土決戦のこと、自分たちの生活圏で戦争をやらかすことです。

そういう防衛をすることがウクライナの国是でした。国民を犠牲にする前提での安全保障政策。これが法律で決まっていたから、アメリカからの情報を色々受け取るけど、話し合いで全て解決するしかない。

ゼレンスキー大統領はその安保のあり方でピンチに立って、今英雄になっているわけです。酷い事になった後で頑張るのもいいですが、そもそも酷い事を起こさせないようにすることのほうが、もっと賢いことです。

ロシアにとってウクライナのこの在り方は、友好のしるしではなく誘因です。まるで誘われているみたい。“どんなに圧力を掛けても、絶対に反撃して来ない国だ”と分かった時、それは攻め込む誘因になります。“コイツに手を出したら、とんでもなく恐ろしい事が起こるんじゃないか”と相手が嫌がることをするんじゃないくて、嫌がることを一切しないで話し合いで全部ケリを付ける。これは絵空事です。

これを日本への教訓とするべきですね。日本の隣には、ロシアよりもっともってえげつない国がある。習近平の中国。ロシアとウクライナの関係とよく似た関係が東アジアにありますね。中国と台湾です。皆さんの中にも、台湾に知り合いがおられるんじゃないですか？ 世界一 親日の国ですよ。

ロシアには、ウクライナは不当に奪われたものという意識があります。同じように、中国共産党にとって、台湾は不当に自分たちの支配から出ているものです。2009年 米中経済戦略会議があって、それぞれの代表が話し合いました。中国代表は国務院の人で（今名前が出て来ないんですが）、「中国には絶対に譲れない核心的利益がある」と言ったんです。

核心的利益とは、どんな事があっても絶対に譲れない一線。ウイグル・南シナ海・香港・台湾・尖閣諸島。「この5つは どんな事があっても諦めない」と言って、今言った順番で1番から3番まで潰した。ウイグル。南シナ海は島々埋め立てて。香港は香港安全基本法を作って、50年間一國二制度でやると言っていたのを踏み潰してしまった。次何ですか？ 台湾と尖閣。

台湾統一は、やるかやらないかの問題ではなく、いつやるかです。昨年2021年は共産党結成100周年。習近平は「私は第2の毛沢東だ」と言わんばかりに、毛沢東が着ていた色の人民服を着て、「台湾統一は私に任されている歴史的任務である」と宣言しました。やるかやらないかではなく、必ず取り戻す。いつやるかです。ウクライナの問題を見ていると大変やなと思いますが、これはすぐに、すぐに日本の問題になります。

もし台湾が中国に攻め込まれたら、アメリカは必ず介入すると宣言していますね。介入してくれると思います。と思いますが、戦場は台湾とその周辺であって、米中の本格戦争にはならない。アメリカが中国本土を、中国がアメリカ本土を攻撃する戦争にはなりません。両方とも核兵器を持っているから。とことんやらない。どこかで手を打つ。停戦になる。どんな状況で停戦するかが問題ですよ。

中国の観点では、「尖閣諸島は台湾に帰属している」と言っています。だから、台湾に攻め込む時は、先島諸島・与那国島・石垣島・宮古島に上陸しますよ。

そして、国境というのは、戦争が停戦状態になった時に、陸軍がいた場所が新しい国境になるんです。一旦日本の島々に中国人民解放軍が上陸して、その状態で戦争が終わったら、そこが新しい国境なんです。これは、日本が次に中国から恫喝される最前線基地になりますよ。まさに他人事ではない。

安倍政権の時、安倍さんは11回モスクワに行って、プーチン大統領と27回も首脳会談をやりました。「27回もプーチンと話して、結局騙されてたか！」と言われてね、責任はプーチンにあると。ま、もちろんそうやと思いますけど、なぜプーチンに近づいて行ったのかというと、北方領土と差し替えで日中関係正常化、国交を正式に結ぼうとしたわけです。

なぜロシアを引き入れようとしたのか。中国から引き剥がしたかったからですよ。
もし中国が台湾に入った時、ロシアと中国が肩を並べていたら、日本は二正面政策です。
南から中国軍と対峙しながら、北からロシア軍とも対決しないと駄目。だから、ロシアを中国から引き剥がすためにそれをやろうとしたのですが、今回のことで、ロシアと中国は完全にくっつきました。

それで、いつやるかの問題ですが、中国はこの30年間で軍事費を42倍にしているんです。既に日本の4倍。
GDPはもうアメリカの75%。アジア太平洋地域に限定すると、2027年にはアメリカの軍事費を追い抜くと言っている。危ないですねえ。なので日本は、ウクライナと同じようにならないように、やはり同盟国を持つべきです。

中国と台湾、ロシアとウクライナには、3つほど共通点があります。

- 中国もロシアも核兵器を持っている軍事大国。
- 中国とロシアは国連安全保障理事会の常任理事国。拒否権があるので、一発で安保理を麻痺させることができる。常任理事国が戦争の当事者になると、国連は一切機能しない。
- 台湾とウクライナは同盟国を持っていない。同盟国がない国は、いざ戦争になると独りぼっちで戦うしかない。

更に恐ろしいことに、ウクライナはれっきとした主権独立国家ですが、台湾は国連に加盟していない。
台湾を国家として認めているのは世界で15しかない。そのうちの2つは、国連に加盟していないバチカン市国と、アフリカの小さなどこにも認められてない国ですよ。

中国は「これは主権国家に対する侵略ではなく、内政問題に過ぎない。治安コントロールだ」みたいな感じで入って行くに違いない。なので、ロシアが大した傷を負わずに、このままウクライナがやられて、むしろこれが成功例として残ってしまったら、台湾に入っていくタイミングがグッと前倒しになると思います。

日本は専守防衛をやめないと駄目ですね。やめるためには憲法改正しないと駄目なんです。
憲法9条第1項は私賛成です。でも第2項で“陸海空、戦力一切持たない。交戦権ない”と書いてある。
だから、同盟持てないんですよ。集団的自衛権 持てない。
自民党って憲法改正するための政党なのに、やるやる言うて…。オレオレ詐欺か。
やるやる詐欺や、と私は思うんですがどうでしょうか。

さて、ロシアの問題を通して聖書預言の真実さが浮き彫りになるので、後半はそのお話をします。
実は、ロシアが世界で大戦争を起こすということを、聖書はかねてから預言しているんです。

聖書は「右のほっぺた叩かれたら、左のほっぺた出さない」とか、「あなたを迫害する者のために祈りなさい」とか、素晴らしい言葉だけど実行不可能な道徳を教えている本だと思っているかもしれません。
それも書いてあるけど、聖書は預言の本。人類がどんな時代に向かっているかを前もって語り、その時代に向かう前に準備させるための神の言葉です。

終末時代に入ると、ロシアがイランやトルコなどの国々を連合国として率いながら、再建されたイスラエルに攻め込む。旧約聖書の**エゼキエル書**に出て来るので、この戦争をエゼキエル戦争と言います。
エゼキエル書にロシアのことが書いてあると言ったら、初めて聞いた方は、にわかには信じられないと思うでしょうから、今日はそこを解説したいと思います。

エゼキエル書は今から2600年前に書かれました。日本にはまだ文字がないんですよ。

日本で一番古い書物は古事記で 1300 年前です。その 2 倍古い 2600 年前。
神は預言者エゼキエルに、人類歴史の終わりのほうで起こる出来事について前もって語っておいたんです。

エゼキエル書 38 章

1 次のような主（創造主）のことばが私にあった。

2 人の子よ。メシエクとトバルの大首長である、マゴグの地のゴグに顔を向け、彼に預言せよ。

顔を向け、彼に預言せよ。これは旧約聖書の定型文です。この言葉が出て来たら、裁きの宣告だと考えてください。良い話じゃない。裁きの宣告を語る時の 1 つの定型文が “顔を向けて言え。”

その言葉は、人の子よ。メシエクとトバルの大首長である、マゴグの地のゴグに顔を向け、彼に預言せよ。

マゴグがロシアです。メシエクはモスクワの語源、トバルはシベリアの中心都市トボリスクの語源と言われています。地球陸地の 1/9 を占めているロシアは、モスクワを中心とするヨーロッパ部と、ウラル山脈の東側のシベリア地域、この両方でロシア共和国です。しかし、ロシアは初めからこんな広い地域を持っていたわけではありません。初めは小さいんです。今のロシアです。



カスピ海は出口がなかったのですが、ロシアは黒海とカスピ海の間水路を掘ったので、カスピ海に軍艦を並べておいたら、そのまま黒海に入ることができるんです。

カスピ海に戦艦が並んでいるのは、イランに対して睨みが利くんですね。この黒海とカスピ海の間地域から上がマゴグです。

1 世紀のユダヤの歴史家 フラウィウス・ヨセフスの『ユダヤ古代誌』という本の中に、旧約聖書に登場する地名や民族は何を指すのかの解説が書いてあるんです。

マゴグはどの辺りか。黒海とカスピ海の間地域から上はロシア。ずーっとロシアなんですね。

『ユダヤ古代誌』は日本語で読むことができます。『ちくま学芸文庫』というシリーズ。

購入されたら自分で確かめることができます。私が学生時代 1 冊 8,000 円。今 1,200 円くらいかな。アマゾン中古だと 200 円。私の青春を返せ、みたいな感じですよ。Kindle でも読めます。

15 おまえは北の果てのおまえの国から、多くの国々の民とともに来る。

彼らはみな馬に乗る者で、大集団、大軍勢だ。

おまえ（ゴグ）は北の果てのおまえの国から。イスラエルから見て北の果てはどこか。

イスラエルの中心はエルサレムです。エルサレムから北極に向かって真っ直ぐ延長して行くと、モスクワの上空を通過するんです。ぜひ地図で確認してみてください。エルサレムから見て北の果て、真北に位置する大きな町はモスクワです。モスクワを首都にしているのがロシアなんですね。

ゴグは人の名前ではなくタイトル・肩書です。アメリカなら大統領。ソ連時代の書記長。北朝鮮は首領様。日本なら征夷大將軍。エジプトならファラオ。最高権力者。それがゴグ。

マゴグの地のゴグに顔を向け、彼に預言せよ。ゴグの一存で動く国がマゴグです。

3 「神である主はこう言われる。メシエクとトバルの大首長であるゴグよ。今、わたしはおまえを敵とする。

4 わたしはおまえを引き回し、おまえのあごに鉤をかけ、おまえと、おまえの全軍勢を出陣させる。

やがて神は、ロシアとその連合軍を引っ張り出すようにして、再建されたユダヤ人国家イスラエルに連れて行くが、イスラエルに入るや否や一日で全滅するという預言です。

引っ張り出すことをおまえのあごに鉤をかけると表現しているのですが、これはどういう意味なのか。エゼキエル書でこの言葉が出て来るのは2回目です。

1 回目は**エゼキエル書 29 章**。エジプトに対する預言。

1 第十年の第十の月の十二日、私に次のような主のことばがあった。

2 「人の子よ。エジプトの王ファラオに顔を向け、彼とエジプト全体に預言し、

ここでも「顔を向けて預言せよ。」裁きですが、これはまだエジプトに実現していません。

エジプトは国が潰れて 40 年間 国家が無い状態になりますが、40 年後に回復するという預言で、将来実現することです。未だかつて、これがエジプトに起こったことは 1 回もありません。

これは千年王国の頭に起こることです。

3 神である主はこう言われる。エジプトの王ファラオよ、わたしはあなたに敵対する。

あなたは、自分の川の中に横たわる巨獣で、『川は私のもの。私がこれを造ったのだ』と言っている。

マゴグの王はゴグ。エジプトの王はファラオ。川はナイル川。エジプトはナイルの賜物。

4 わたしはあなたのあごに鉤をかけ、あなたの川の魚をあなたの鱗につけ、あなたと、その鱗についたすべての川の魚を、川の中から引き上げる。

これは、エジプトを国外に引っ張り出して、荒野で滅ぼすという意味です。

後の節に、その説明が出て来るんですね。

あごに鉤をかけるとはどう意味か、ここでイメージできるように書いてあるんですね。

水中に住んでいる生き物を、その顎に引っ掛けて引き上げる。すなわち釣り針のことです。

人間の顎には引っかからへん。そうじゃなくて、水(川)の中の生き物、ここでは**巨獣**。ある聖書では竜。

鱗があって大きい。ある翻訳では鱶(ワニ)。とにかく大きな水中生物を捕獲するには、鉤で突くか、網で引っ張り上げるか、**顎に鉤を掛ける**。つまり、思い切りパクつかせて、そのまま引きずり出す。

カジキ漁。カジキマグロという言い方は正しくないそうですが、疑似餌を使って船で進んで行くと、疑似餌が泳いでいるように見えるので、カジキが思い切り噛む。それが顎に食い込んで離れない。そして、弱るのを待って船に引き上げるんですね。

それと同じように、ロシアが餌に食いつくようにガブツと食いつくものがある。それがイスラエルです。なぜイスラエルを狙うのか。

エゼキエル書 38 章。

8 多くの日が過ぎて、おまえは徴集され、多くの年月の後、おまえは、一つの国に侵入する。

そこは剣から立ち直り、多くの国々の民の中から、久しく廃墟であったイスラエルの山々に集められた者たちの国である。その民は国々の民の中から導き出され、みな安らかに住んでいる。

世界中に散らされていたユダヤたちが、多くの国々の民の中から導き出され、もう一度、元いた国に集まって国を造った。それがイスラエルです。

9 おまえは嵐のように攻め上り、なぜ攻め上げるのでしょうか。

13 シェバやデダンやタルシシュの商人たち、およびそのすべての若い獅子たちは、おまえに言うだろう。『おまえは分捕るために来たのか。獲物をかすめ奪うために隊を構えたのか。銀や金を運び去り、家畜や財産を取り、大いに略奪しようとするつもりか』と。

ここにイスラエルに攻め込む理由が書いてあります。富の収奪のためなんですね。

疑似餌に食いつくのは腹ペこのカジキだけです。お腹いっぱいなら食べません。

終末時代、ロシアは何らかの理由で非常に貧困状態になっているので、非常に豊かな国に攻め込むのです。ロシアは何らかの理由で非常に貧しくなり、イスラエルは何らかの理由で世界有数のリッチな国・大金持ちの国になる。それが示唆されているんですね。

今 ロシア成敗で世界がやっているのは、一緒に戦う国は無いけど経済制裁ですね。

経済制裁しても、ロシアは地球陸地の 1/9 もあって、エネルギーは自給自足、天然ガスも石油も自前。そして、世界一の小麦の輸出国だから、国を閉じたとしても食って行くことはできる。生きて行くことができる。そのように言う方もいるのですが、そんなに上手いこと行かないです。

経済制裁というのは返り血を浴びる制裁なので、必ず西側にも跳ね返って来ることです。

ロシアのドル箱は天然ガスと石油ですが、それらを汲み出すための技術は西側企業の技術なんですね。その機械装置は必ず消耗します。その部品が供給されないと動きません。地面の下に石油・天然ガスが眠っていても、汲み出すために必要な基盤となる部品を入手できないと、次第にフェードアウトします。

ロシアは小麦世界一。しかし、その小麦は西側から買っている。カーギルを始めとする巨大穀物商社。巨大穀物商社が売っている小麦はハイブリッド小麦といって、害虫・干ばつ・冷害・病気に強く、しかも 1 粒で普通の小麦の倍くらい実る。非常にコスパがいい。しかし、この小麦を一度収穫した後でまた植えても、普通の小麦になってしまっていて、その特性は全部失われてしまうんです。これを F1 種と言います。一度蒔いた時しか、その性質が現れない。つまり、一旦このハイブリッド小麦を導入すると、永久にこれを買いつけなければならない。これを西側企業が持っているんです。

カーギルは、「ハイブリッド小麦の輸出を止めてしまったら、ロシアは小麦を作ることができず、ロシアから買っている国々が餓死になるので、それはできん。私たちはロシアに小麦を売り続ける」と言っていますが、今アメリカ国内でものすごいプレッシャーを受けているんです。どうなるか分かりません。

ロシア内部で起こっていることをひと言で言うと、旧ソ連時代に戻るということです。

冷戦時代は何から何まで全部自給自足できたけど、グローバル時代になって、生活基盤の用品・食料品・様々な産業機械・半導体など、安い所からより良い物を買って来るというシステムにしていた。それが全部入って来なくなったら、ロシアというのは軍事力は強いけど貧しい国。すなわち北朝鮮です。でっかい北朝鮮が 1 個ドンと出来る。

経済制裁を受けたからといって、ウクライナの占領している所を返すという、そんなことはしません。

経済制裁で国をコントロールできるなら、北朝鮮はとっくの昔に核を諦めてますよ。

あんだけゴリゴリにやってもミサイル撃ちまくって、しかも、どんどん性能向上しているじゃないですか。でも、ロシアは旧ソ連時代になりますね。貧困の国になります。

4 わたしはおまえを引き回し、おまえのあごに鉤をかけ、

この鉤は複数形です。つまり、ロシアがイスラエルに出ざるを得なくなる理由は 1 つではない。

いくつかの鉤がロシアに食い込んでいて、それで引っ張り出される。

私は貧困だけではなく、他に理由があると思っています。貧困という理由が出て来ると、国民が不満を持ちます。今プーチン大統領の支持率は82%だそうですが、国民が不満を持った時、それがプーチンに向くかどうかは分かりません。

第一次世界大戦が終わった時、ドイツは天文学的な賠償金を背負わされたために、国内でものすごい不満が出て来たけど、その不満はヒトラーにではなくユダヤ人に向いたんです。

第一次世界大戦の戦場は、ドイツ国内にはなかった。ドイツは国の外側に兵隊を送って戦いました。ドイツに住んでいる人は戦争があったという実感が無い。何も被害を受けてないのに、何が何だか分からないうちに負けたことになって、天文学的な賠償金を背負わされ、ここまで追い詰められて。なぜこんな事になったんだ？ なぜこんな酷い目に遭っているのか？・・・ユダヤ人が陰謀を企んでいたからだ…。そういうのがまことしやかに出て来た時、みんな飛びついたんですね。

実はロシアは伝統的に反ユダヤの国なんです。『シオンの議定書』、聞いたことがありますか。ユダヤ人たちが地下政府を持っていてどうのこうのという。これはロシアで書かれたんです。未だにユダヤ陰謀論を言っている人、いっぱいいるでしょ。YouTube カットするから言いますがね。元ウクライナ大使の馬淵睦夫（まぶち むつお）という人、私のところに動画貼り付けて来て。

一つ紹介したい本があります。ジョージ・オーウェル（1903-1950）の『1984年』。これはディストピア小説と言われています。ディストピアは絶望社会・絶望世界。ユートピア（理想社会）の反対です。「我々の世界を待ち受けているのはユートピアなんかじゃない。絶望的な世界が待っているのだ。それは1984年に実現するだろう。」彼は1949年にこの小説を書きました。

1949年、中国共産党が中華人民共和国の建国宣言。北朝鮮で朝鮮労働党が北朝鮮旗揚げ。ドイツが東西分断。スターリンが元気いっぱい。いよいよソ連が世界をスターリン主義で塗り潰していくのではないかと。そんな危機感いっぱいの時、35年後に世界はこうなっているのではないかと。それが『1984年』です。

その本では、世界は3つに分割されています。オセアニア・ユーラシア・イスタシア。主人公はウィンストン・スミス。独裁国家オセアニアの官僚です。オセアニアにはビッグブラザーという独裁者がいます。彼はその下で真理省に勤めています。実にきな臭い名前ですよ。怪しい。真理省。

真理省で朝から晩まで、毎日毎日歴史の書き替えをやるんです。過去に起こった出来事を、ビッグブラザーの党にとって都合の良い歴史に書き替える。またビッグブラザーは、時々言うことが方向転換するんですね。その都度、都合のいいように、それが事実であるかのように歴史を書き替えていく。そのために、いた人を消したり、いないにもかかわらずいたことにする。架空の人物を作ったりする。無かった事があった事実として描かれていくんですね。恐ろしいですよ。

オセアニアとユーラシアは戦争してて、「オセアニアの生活が苦しいのは、ユーラシアが陰謀を企んで、我々をいつも酷い目に遭わせて来たからだ。」不満が全部外側に向くように持って行く。彼は歴史を書き替えているので、それが全部ウソだと知っているんですね。ある時嫌になるんです。こんな嘘で固めた歴史、朝から晩まで見張られて。

テレスクリーンという装置があるのですがiPad そっくりやねん。このテレスクリーンで、ビッグブラザーの都合のいい情報をずっと流している。それを見ていると、どんどん洗脳されていきます。

同時に、見ている人を見張る機械でもある。そして町中に、“ビッグブラザーはあなたを見ている” というポスターがあるんですよ。気色悪い。

彼は「こんなに見張られて、あること無いこと、無いこと無いこと、嘘で固められた世界で生きるのは息が詰まる。もう嫌だ。こんな世界ぶっ潰したい！同じ心境になっている人間は、他にも絶対にいるはずや。」秘かに秘かに探して、遂に反政府組織を見つけ出した。その反体制組織をブラザー同盟と言います。彼はこの組織に加盟するのですが、これは政府が作った組織だった。反感を持つ者たちを一箇所に集めて一網打尽、滅ぼすための罠だったんです。彼はそこで捕らわれます。

この小説の最後、恐ろしいですねえ。オセアニアとユーラシアは長い間戦争やってたんですが、オセアニアが勝つんですよ。その時には ウィンストン・スミスはもう洗脳されているので、勝利のトランペットを聞いた時 涙がとめどなく流れて、こう言うんです。

「ビッグブラザー、あなたを愛します！あなたに疑いを持って反抗しようとしたんですが、なんとバカなことをしたんでしょう。ビッグブラザー、あなたこそ本当の指導者です！」感動して涙を流している、というところで突然終わる小説。気色悪い。

ロシアが長い経済制裁を受けて行ったら、国民は不満を持つと思います。でも、その不満がプーチンに向くかという、必ずしもそうではないかもしれません。むしろその不満を、何か別のものの責任に擦り付けることができる。実際、日本ですら「ユダヤがやった」と言う人がいるんですから。

習近平が腐敗撲滅運動ということでライバルを全部潰して行って、恐るべき権力を振るっていますが、共産党が一党独裁体制を取れたのは、共産主義のシステムを実行できる民主集中制だったからです。でも、今やっているのは共産主義じゃない。資本主義じゃないですか。にもかかわらず、共産党が全ての権力を握っていることを正当化できているのは、「共産党だけが中国の恨みを晴らすことができる」と言っているからです。これを百年告知と言います。

1839年のアヘン戦争から1945年の日中戦争終結までの約100年間、中国は7つ戦争しています。全部負けました。負ける度に莫大な賠償金を取られて、港を開港させられて、土地を租借されたり割譲されたり。中国が欧米列強・ロシア・日本からどれほど蹂躪されたか！この100年の恥をそそぐ。それを実行するのは中国共産党しかない。恨みのエネルギー・憎しみのエネルギーを歴史戦に持って行って、国家団結のために用いてますよね。

ロシアはなぜイスラエルに入るのでしょうか。おそらく、現代版反ユダヤ主義の陰謀論が、まことしやかに信じられると思います。その時ロシアと一緒にイランとトルコが入って来るんですよ。

今はイスラム教のラマダンです。ラマダンは年1回1か月間、日昼は唾も呑み込まない。断食です。しかし、日没になると思い切り食べるんですよ。絶対太ると思います。食事の取り方として最悪です。お腹が空いているから、余計に味覚が鋭敏になりますよね。この1か月は断食の期間なんですが、このラマダンに善行を積むと、普段の時よりも10倍から700倍の評価を受けるそうです。ポイントセール。

この2週間、イスラエルでイスラム原理主義のテロが5件起こりました。たくさんの方が亡くなっている。今年のラマダンで、テロがものすごく多いのはなぜか。イスラエルにはたくさんのモスクがありますが、そこである教えが流行しているんです。その教えはイランから来たんですね。それは、コーランのある一節を使って特別な計算をすると、“2022年7月8日にイスラエルが滅びる”と読むことができるという教えです。今年7月8日、何らかの理由でイスラエルが滅びる。

だから今年のラマダンは、イスラエルが滅びる前に過ごすことができる最後のラマダン。
この時にテロをやって死んだら、殉教で 700 ポイント倍増。イスラエル滅亡に一役買ったということで、大々的に評価されるという。これも反ユダヤ主義です。

イスラエルはロシアのものになったことなんか 1 回もないのに、なぜイスラエルにわざわざ来るんでしょうか。あごに鉤をかけ。貧困だけでは理由が見つからない。イスラエルに対する、何かたぎるような憎悪・憎しみといったものがあるでしょう。そして、多くの国々の民を率いてイスラエルに攻め込んで来る、と預言しているのです。

**21 わたしは剣を呼び寄せて、わたしのすべての山々でゴグを攻めさせる。一神である主のことば一。
剣による同士討ちが起こる。**

剣とは軍事力です。ゴグとその同盟軍がイスラエルに入り込んだ時 彼らは武器で滅びますが、この武器はイスラエル国防軍ではありません。剣による同士討ち。自分たちの武器で自らが滅びる。イスラエルを滅ぼすための武器で、自分たちの仲間や味方を攻撃して滅びる。

**22 わたしは疫病と流血で彼に罰を下し、彼と、彼の部隊と、彼とともにいる多くの国々の民の上に豪雨、
雹、火、硫黄を降らせる。**

23 わたしは、わたしが大いなる者であること、わたしが聖であることを示し、多くの国々の見ている前でわたしを知らせる。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。

多くの国々の見ている前で。世界中の人々が、地球の裏側の国の人々もリアルタイムで、ゴグの連合軍がイスラエルで一日にして滅びるのを見る。

今回のウクライナ戦争を見ていると、SNS がものすごく用いられてますよね。
昔は戦争報道といえば CNN です。今は戦争の現場にいるウクライナ人が、自分のスマホをかざして「こんな事が起こっています。」現地の人意見は何ですか？「私が喋ります。私が現地の人ですから。」生々しい情報がリアルタイムで世界中に配信されるんです。

多くの国々の見ている前で。この戦争をリアルタイムで見ることができると預言しているエゼキエル書は、今から 2600 年前に書かれました。その当時はスマホなんか無い。今の時代にしか理解できないようなことが、今起こっているんですね。

そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。知るは体験的に知ることです。
聖書の預言通りにこの戦争が目の前で展開するのを見た時、この書物を書かした神は本当におられ、聖書は単に哲学の本ではなく生ける神のことばであり、歴史がこのように実現する遙か前から見ていた創造主なる神が本当におられる。普段 神のことなんか考えたこともない人が、この大きな戦争を通して、戦慄を覚えながら「創造主はいる」と知るようになる。

ところで、この天満橋バイブル倶楽部を大変楽しみにしている方が全国、全世界におられるんです。
先日、ある女性からメールを頂きました。911 の時ニューヨークにいて、世界貿易センタービルに旅客機がぶつかって行き、ビルが垂直に崩れて行くのを目と鼻の先で見た。彼女は新聞記者です。
その時のタイヤが焼ける苦い匂いがトラウマになって新聞社を辞め、日本に帰って来ました。
ようやく傷が癒えたけど、まだトラウマのためにアメリカに行くことはできない。今ドイツやポーランドでジャーナリストの仕事をしておられ、天満橋バイブル倶楽部を見てくださっているんです。

